

浜町から **風の便り** XV
 丑年奉祝 2021 (令和3) /1/1.
 蟲特集 船橋市浜町 辻 秀幸

ムシ特集です

携帯電話を購入した。電話の機能だけあればいいと一番安い機種にした。不思議なのはカメラが基本的な機能として必ず付いていること。カメラは嫌いではない。しかも、フィルム時代と違ってすぐ映像が見られて、プリントするのもトリミングするのも簡単である。ムシを撮ってみようと思った。昆虫ではなく「ムシ」である。身近に現れるのはゴキブリからミミズ、クモ、カラス、犬、猫などなど。写せそうな生き物全てを対象とした。人間を含めてムシ(蟲)と表現した時代というか言葉が有るらしい。そこで「ガラケー蟲記」と題して撮影し記録し小冊子にまとめる大事業に挑んだ。

写真の出来栄えにがっかりした。先輩で元同僚のY先生(令和2年度自然環境功労者環境大臣表彰受賞)に愚痴をこぼすと、「ナタとカミソリは役目が違う」と助言を頂いた。プロの高性能高価格の器材とは違う土俵で、ガラケーらしい、私らしい写真をめざせ。が、まだまだ自分の土俵にもたどり着けない。

公開を前提としてはいないので、内緒でほんの少しご披露します。自慢も少しあるかな。

以下、まとめのシリーズ2「ヒデちゃん蟲記」から。体長などのデータは一切省略。

現場が大事

カさんからホシホウジャクが吸蜜しているシーンの絵はがき仕立てのお便りを頂いた。仰天した。写したかったのはこういう写真なのだ。書店に並ぶ写真集で見るとような出来栄えだ。氏

からは他にも何枚か昆虫の写真が贈られてきた。負けてなるものかと奮い立った。



ヤマトシジミ (チョウ目・シジミチョウ科) 「ハチ・ハエ・チョウ目編」

私には上の写真くらいが限界。

シジミチョウは元気で写しにくい。イチモンジセセリは比較的撮りやすい。アオスジアゲハとモンシロチョウも写せたが、警戒心が強く近づくのは難しい。

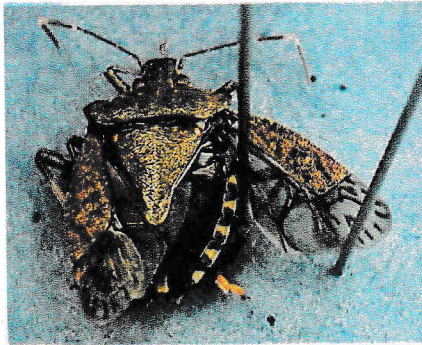
市川学園で標本作りをしていた時に、ベランダでオオミスアオらしいガを見た。水色の布切れが落ちていのかと近づくとちょっと動いて、少マギョツとした。補虫網を持って戻ると姿をくらましていた。

展翅

イさんの苦手?なカメムシが結構見つかる。集める内に、羽に隠された胴体はどうなっているのか見なくなった。

展翅はシジミチョウやガでも試みたがうまくいかない。道具が無いせいで、と勝手に決めている。かつて学園で図書館内と周辺に現れる昆虫を集めた時にはもっと手際よくきれいにやれたはずだ。道具のせいだけでなく、手先が不器用になったのだろう。

カマキリやカメムシは、チョウやガに比べると扱いは容易ではあるが、さてどうすればいい



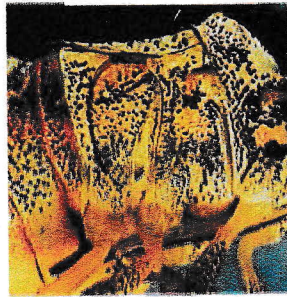
クサギカメムシ (カメムシ目カメムシ科) 「カメムシ目編」

のやら。

クサギカメムシは胴体もジミだった。飛んだ瞬間に赤い胴体が目立つムシがいた。首尾よく捕まえることができた。ホオズキカメムシであった。そういうのも居てなんだが面白い。

部分品探し：臭腺

Y先生の著になる『昆虫博士入門』(山崎秀雄著 全国農村教育協会 2014)に臭腺(しゅうせん)の写真がある。見つけられるかなと、虫眼鏡で覗く。それらしいものを見つけた。写せるか。なんとが得たのが下の写真。うっかり強くつかんだりしてひどい目にあうのはここからの臭気。いまのところ被害にはあっていない。



← これか?

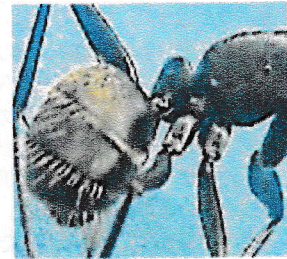
クサギカメムシ (カメムシ目カメムシ科) 「カメムシ目編」

カメムシについては、卵から抜け殻を含めて交尾までの写真が集まったので後のシリーズでまとめた。これは面白いと思うのでご紹介するチャンスが待たれる。

部分品探し：腹柄

臭腺より先に写そうとして苦労したのが、アリが持つ胸部と腹部をつなぐ突起状の腹柄(ふくへい)。アリは大小について何回も撮影を試みたが、小さくて黒くて、ガラケーの、いや私の手に余る。その中でまあまあ我慢できる、というのが次の写真。この部分品は、狭い巣の中を移動する時に体を折るのに役立つらしい。

これ ↓



クロオアリ (ハチ目・アリ科) 「その他の昆虫編」

ハンシーン!

ナミテントウとナナホシテントウがよく見つかる。成虫はテカテカ光って、自然光でも電灯でも光源がもろに反射して写しにくい。

幼虫やさなぎも見つかる。変態の様子が見られるかもしれないと持ち帰った。幼虫は餌をあげることが出来ないので、動きを止めて変身間近と思えるものを観察対象とした。意外と簡単に変化を見られた。ただしその瞬間を写すのは難しかった。ファーブルさんの忍耐根氣にあらためて感心する。

とくに、成虫が生まれるところを見たいと思ったが、羽化はアッという間(アッアッという間かな)に終わるので、気がつくと成虫と抜け

殻とになっている。1回だけなんとかその瞬間を写せたがここで対象としている「ヒデちゃん 蟲記」より後で、慌てていたので防犯カメラの再生写真程度にしか写せなかったので掲載は遠慮しておく。

出来の悪い羽化の様子を写す含めて変態の経過は大分記録できた。後のシーズンにまとめたので機会があれば、見る？



分がりにくい、幼虫が変身中。下に続く。



続いて、幼虫がさなぎになりました。時々「起立！」する。私には面白い発見。2枚とも同じ種・サミテントウ (ゴウチョウ目テントウムシ科) 「コウチョウ目編」

クモ 蜘蛛 spider

浜町公園にはクモが多い。巣をはるもの、地面や葉を走りまわるものなど、それぞれの方法でエサにありついているのだが、巣を張って待つのは消極的かつ非効率ではないかと考えていた。しかし、この方法で子孫を繋いできたのだし、巣を見ると結構食べかすらしいものが付い

ている。そのへんいかに？ と尋ねてもクモは「知らん」と答えるだけだろう。

嫌われものの代表のようなクモにも、少しは気に入られそうな美しいモノがいる。美しいとは言えないが、部屋でムシを食べてくれるハエトリグモにも模様がある。

キレイというかハデなことでは知られるのがジョロウグモ。その巣の中程に、中央の大きなメスを窺うように小さい細長いクモがいるのをよく見かける。これがジョロウグモのオスではないかとの疑惑を抱いた。似ている形で大きさの違うクモを集めている内に、ジョロウグモのオスメスの成長過程をまとめることができた。といっても私が勝手にそうだと思うだけで、とくにオスはナガコガネグモと区別できない。メスも模様が区別できない段階がある。

なんとかジョロウグモとナガコガネグモの成長段階を雌雄に分けてまとめた。

クモがいっぱい並んでますが見たい？ ご希望なら機会をつくりますが。



多分ジョロウグモ (節足等物・クモ形綱・クモ目・コガネグモ科) メス 「昆虫以外編」 (「エサ」はオンバッタだろう)

指輪と幼稚園

下の写真を得て指輪を思い出した。南海のフランス領の小島に行った時、船橋のお医者さんの奥さまがご自分用に選んだ指輪。うっとりした瞳で見せてくれた時の印象がこれ。帰国後、最新のデザインらしいと知った。フランスの、名のあるデザイナーかメーカーの商品だったのかもしれない。

同じ船橋で、YT 先生が経営している幼稚園ではダンゴムシの住む環境を整えている。園児はダンゴムシと遊んだり、砂地の庭で駆け回る。私はいいなと思うが、今どきのママ・パパは、すりきずをつくったりダンゴムシをおみやげにするのは歓迎しないとかで、幼稚園は存亡の危機に瀕しているらしい。



ダンゴムシ (節足動物・甲殻類・等脚目・ダンゴムシ科) 「昆虫以外編」

灯台購入

行き付けのスーパーで灯台を売っていた。安いし持ち帰れるので購入。商品説明には「(灯台) 殻付きつづ貝 (北海道産)」とある。

おそらくシライトマキバイだろう。シジミやアサリも写してみようかと思ったのをきっかけに、売られているものは一通り「採集」した。アワビも、小型で低価格のを手に入れた。撮影後、身は、バター蒸しを自己流に改竄して食した。旨かった、といえる範囲に出来てにんまりした。

なんで灯台と呼ばれるのか。フト思いついて殻を陽に透かして見た。こんな様子からの連想で各付けられたのかなあ。



シライトマキバイ (軟体動物・腹足綱・エソバイ科) 「昆虫以外編」

船橋見物

千葉銀行船橋支店に入ったらカバらしい動物と目があった。ガラス越しだしおとなしそうなので近づくと親子であった。大ききから察するとコビトカバらしい。

カウンターのお姉さんに何でここに居るのかと聞くと、ニコリ笑って「さあ」と答えてくれた。アフリカ西部から船橋観光にはるばると旅してきたのだろうか。多分船旅だな。まだ滞在しているでしょう。



コビトカバ? (哺乳類・偶蹄目・カバ科) 「昆虫以外編」
 ヨトシハラシデトラビデチャンのサキタツミウマヒツジサルトリヌイネズミ Y 先生から市川市の「大柏川調節池ビジターセンター」の資料を頂いた。水辺の動植物など自然環境の保全・復元に務めることをめざす施設、とあります。市川学園そばなので、暖かくなったら遊びに行こうかな。。